

令和5年度
諏訪中学区モデルエリア・青陵中学区モデルエリア
中間支援業務 実施報告書

2024年3月31日 合同会社MichiLab



An aerial photograph of a densely populated urban area, likely in Japan. The image shows a mix of high-rise apartment buildings, smaller residential structures, and green spaces. A central area is highlighted with a semi-transparent white box containing the text "諏訪中学区モデルエリア". The surrounding area is filled with various types of buildings, including some larger commercial or institutional structures, and is interspersed with trees and parks. The overall scene depicts a well-developed, modern urban environment.

諏訪中学区モデルエリア

諏訪中学区モデルエリア

本モデルエリアの当初設定した本年度の取り組みの方向性と実施した事業は以下の通りです。

- 【今年度の取り組みの方向性（諏訪中・青陵中学区共通）】
- ①. 地域ニーズ実現に向けた支援、地域活性化支援
 - ②. 現役世代でも参加しやすい取り組みや地域参画方法の模索
 - ③. 新たな地域の担い手の発掘
 - ④. これまでリーチできていない地域の方、子育て世代へのリーチ（楽しそう・やってみたい・参加してみたい）
 - ⑤. 地域の魅力（子育て環境の良さ、公園・自然環境の良さ、公共空間の良さ）発信

No	日付	内容	場所	方向性	項
1	6/17	諏訪はっけん隊（企画制作・運営）	諏訪地区	②④⑤	
2	7/22	夏のDANCHI教室	永山・諏訪近隣センター	④⑤	
3	9/30	諏訪中学区エリアミーティング	諏訪老人福祉館	①②③④⑤	4
5	10/21	見つけよう秋の多摩NEWライフでかまどベンチ企画実施	永山・諏訪近隣センター	①③④	5
4	10/28	馬引沢こどもハロウィン	馬引沢地区	①③④	6
6	3/9	諏訪キャンドルナイト2024	諏訪児童館周辺	①②③④⑤	7

諏訪中学区エリアミーティング

多摩市が住民基本台帳から無作為抽出で2000名に案内を送付、市による「SIMULATION TAMA」の後、若者会議メンバーにてワークショップを行い、同地域での今後の取り組みを具体化しました。



市によるSIMULATION TAMAの様子



若者会議メンバーによるワークショップの様子



●みんつくキッチン(12/16)



●物々交換会 (12/16)



公園の新しい使い方、街中清掃プロジェクトなど実践に向け準備中

防災訓練を兼ねたイベントの開催



公園内で枝等を探し集める



かまどベンチの使い方のレクチャー



かまどベンチでマシュマロを焼いてみる

実施日	2023年10月21日
実施場所	永山南公園
協働先	UR都市機構
参加人数	約300名



©UR都市機構

永山南公園（諏訪地区に隣接）での開催ですが、馬引沢・諏訪地区の方に広く声を掛け開催した為、諏訪中学区の事業としてカウントします。

2023年10月21日(土)永山南公園・永山団地名店街で開催された「見つけよう秋の多摩NEWライフ」でUR都市機構さんと一緒に永山南公園のかまどベンチを楽しみながら使ってみる企画を開催しました。

2016年の永山南公園のリニューアルの際に災害時にかまどとして使用することができる「かまどベンチ」が設置されましたが、災害時に「かまど」として使えること自体あまり知られておらず、地域の方に防災時にかまどとして活用して貰えるようにしたいと考えたものです。

今回は災害時でも手に入る公園の雑木林にある落ち葉や枝を集めるフィールドワークを開催（災害時は破損した家具がなども活用します）、その後、かまどベンチの組み立て方や、火の起こし方や育て方を説明、参加者にも火おこしに参加して貰い、最後にお楽しみでマシュマロを焼いてもらいました。

想定以上の来場者の方にご参加頂き、余裕をもって1日分として用意したはずのマシュマロが全て1回目の開催でなくなり、近隣のスーパー等でマシュマロを買い集めるほどでした。

馬引沢ハロウィン企画

■ハロウィン道中こども110番の家

- 元々は多摩市若者会議コアメンバー会議からのアイデアで、こども110番の家を覚えていない子どもが多いという課題解決から着想したもので、今回で2回目の開催になります
- こども会や青少協が存続できなくなってしまったこの地域を選び、子ども向け企画を開催すると、地域の担い手の掘り起こしを狙い企画しました。地域の方の協力者も公募しました。
- 馬引沢自治会・北諏訪小学校父母の会・地域福祉推進委員会に協力して頂きました

■データ

- 開催日：2023/10/28(土)
- 協力：馬引沢自治会、北諏訪小
父母の会、多摩市若者会議



実地・徒歩による 事前調査

※公開データが得られない
為、全て徒歩で確認してい
ます。

【イベント当日の流れ】



①受付で説明を受ける



②こども110番の家を探しマッ プにその家の特徴を記入



③ゴールで写真 と照らし合わせて 確認して、お 菓子をGet！

諏訪キャンドルナイト2024



地域の方が参加しての点火



風の影響でキャンドルが消えてしまふ為、最終的にU字溝内で点火



第3回多摩市若者会議のアイデアのプラレールも永山児童館の協力で実践



UR都市機構さんと諏訪地区で住民の方にできる限り参画して貰いながらイベントができないかということでアイデアを出し合い、長池地区で行っていたキャンドルナイトを諏訪地区で実施することにしました。キャンドルナイトについては諏訪地区の住民の方からもやりたいとお声がけ頂いていたもので、お声がけ頂いた方にもご協力頂きながら運営しました。

実施日	2024年3月9日
実施場所	諏訪児童館周辺
協働先	UR都市機構・多摩市
協力	諏訪児童館・永山児童館

令和5年度の諏訪中学区の取り組みの振り返り①

(1) イベントへの参加を契機とした既存団体との協力関係づくり【△】

①馬引沢・諏訪地域福祉推進委員会

令和4年度までと同様に馬引沢・諏訪地域福祉推進委員会の運営に協力し、6月の「諏訪はっけん隊」では企画制作・運営等に協力し、本企画では一般の参加者から高い評価を頂きました。しかし、馬引沢・諏訪地域福祉推進委員会の事務局である多摩市社会福祉協議会と多摩市の協議の結果、委員会の意向とは異なるものの8月をもって多摩市社会福祉協議会の意向で多摩市および弊社による馬引沢・諏訪地域福祉推進委員会への協力は終了することとなり、今後、この地域においては情報共有のみを行うこととなりました。弊社では世話人や委員会参加者との会話を継続し情報共有し本事業の取り組みの参考にしています。

②馬引沢自治会

令和4年度に好評だった「馬引沢こどもハロウィン」について、本年度も馬引沢自治会・北諏訪小父母教に協力頂きながら開催しました。自治会も参加しての発展的な開催も視野に入れ会話を行っていたましたが、日程の都合で令和4年度と同等の規模・内容でのMichiLab・若者会議による開催に至りました。参加者からは好評で青少協・こども会のなくなってしまったこの地区で子供向けの企画を継続・発展的に実施して欲しいとの声を頂きました。

⇒本年度は既存の地域団体との取り組みという観点では新たな動きや既存の協力関係の発展には繋がられませんでした。

本地域では青少協や子供会が解散するなど既存団体の活動も縮小傾向にあり、今後も既存団体との連携の強化や新たな協力関係の構築に取り組めますが、本地域においては後述の一般の市民の地域参画推進の試行に注力し、新たなグループや団体を生み出していく機運醸成に努めたい考えです。

令和5年度の諏訪中学区の取り組みの振り返り②

(2) 地域活動の参画者の増加及び地域での繋がり強化のための地域参画推進の試行実施【◎】

①エリアミーティング

9/30に開催したエリアミーティングが契機となり、従来開催されていた市民によるイベントが新たな参加者が加わる形で復活したり、エリアミーティングで出されたアイデアの実現に向け継続的に調整を行っているものがあります。この取り組みで特筆すべき点は従来の地域の会合や取り組みに参加していない、ごく普通の市民が多く参加してくれたこと、その後の取り組みに発展したことで、従来この地区では実現できなかった地域参画の推進において大きな手応えが得られました。

②UR都市機構と連携したイベント

本地区で賃貸住宅や近隣センターの店舗を所有・運営しているUR都市機構との連携を強化し、地域課題や地域の声（※）に即した形でのイベントを開催しました（7・10・3月の3回）。防災の取り組みを兼ねながら楽しめるようにと企画したかまどベンチの企画には300名以上が参加、3月のイベントでは多くの地域の方に運営をお手伝い頂くなど、エリアミーティングとは別の従来にはない大きな手応えが得られました。

※エリアミーティングや地域福祉推進委員会参加者との情報共有から

⇒これまで中々手ごたえの得られなかった本地区ですが、本年は上記2アプローチで大きな手応えが得られ、この地区の今後の取り組みに大いに生かしていきたい考えです。新たな地域参画者を掘り起こしながら、地域で活動する人が背中を見せる形であらたな地域参画者を掘り起こす連鎖を繰り返す形で発展させていきたいです。

諏訪中学区の次年度の取り組み

本モデルエリアでは、本年度までの取り組みを受け、次年度は以下の取り組みを実施します。

- ①エリアミーティングの継続開催
- ②より気軽に参加できる地域の取り組みの開催（清掃や来場者参加型企画など）
- ③地域の新たな取り組みへの支援
- ④地域課題に即したイベント・地域資源を活用するイベントの開催
- ⑤地域への情報発信方法の試行
- ⑥既存団体・イベントへの協力を行いながら、地域の多様な世代の地域参画を図る試み

特に①②に注力しますが、①②の取り組みが他の項目にも発展していくと考えており、①②の種蒔きを行い出てきた芽の分野を多く育てていく方針としたい考えです。

上記 6 項目は青陵中学区と同様となりました

地域協創における中間支援組織の在り方については、長期的視野で本報告書後方でも触れています。

An aerial photograph of a residential area, likely in Japan, showing numerous multi-story apartment buildings interspersed with trees and green spaces. A semi-transparent white banner with black text is overlaid across the middle of the image.

青陵中学区モデルエリア

青陵中学区モデルエリア

本モデルエリアの当初設定した本年度の取り組みの方向性と実施した事業は以下の通りです。

【今年度の取り組みの方向性（諏訪中・青陵中学区共通）】

- ①. 地域ニーズ実現に向けた支援、地域活性化支援
- ②. 現役世代でも参加しやすい取り組みや地域参画方法の模索
- ③. 新たな地域の担い手の発掘
- ④. これまでリーチできていない地域の方、子育て世代へのリーチ（楽しそう・やってみたい・参加してみたい）
- ⑤. 地域の魅力（子育て環境の良さ、公園・自然環境の良さ、公共空間の良さ）発信

No	日付	内容	場所	方向性	項
1	7/2	青陵中学区エリアミーティング	貝取こぶし館	①②③④	11～14
2	7/29	第7回多摩BOOKさんぽ	JSmile多摩八角堂・豊ヶ丘南公園	①④⑤	12
3	10/7・8	多摩ランタンフェスティバル2023	JSmile多摩八角堂・近隣センター	①②③④⑤	11
4	10/14	エステート貝取-2 夏祭りイベント支援	エステート貝取-2	①④	15
5	11/11	第8回多摩BOOKさんぽ	JSmile多摩八角堂 ・豊ヶ丘南公園	①③④	
6	11/19	こぶし館まつり	貝取こぶし館	④⑤	
7	12/3～10	ぱらあーと多摩市みんなの美術作品展豊ヶ丘・貝取会場	豊ヶ丘・貝取商店街	④	
8	1/20	エステート貝取-2 焼き芋イベント支援	エステート貝取-2	①④	15
9	3/30	第9回多摩BOOKさんぽ	JSmile多摩八角堂	④⑤	16

青陵中学区エリアミーティング

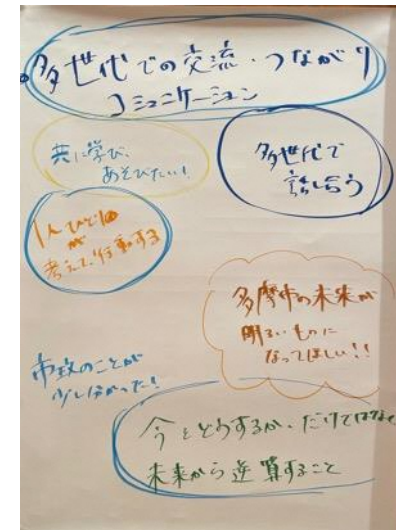
多摩市が住民基本台帳から無作為抽出で2000名に案内を送付、市による「SIMULATION TAMA」の後、若者会議メンバーにてワークショップを行い、同地域の未来や地域でそれぞれがやってみたいことを共有、その後の取り組みを具体化しました。



若者会議メンバーによる
ワークショップの様子



市によるSIMULATION TAMAの様子



青陵中学区エリアミーティングのその後①

■多世代カラオケ@こぶし館



エリアミーティング参加者を中心に
こぶし館で世代を超えたカラオケ会

■ランタンフェスティバル



ランタンフェスティバルオリジナル
ビールワークショップへの参加
(第7回多摩BOOKさんぽにて開催)



ランタンフェスティバルへの出店
©2017-2024 合同会社MichiLab・多摩市若者会議

■一本杉公園の池の清掃への参加



■若者会議への参加

- エリアミーティング発端で若者会議に4名が参加。若者会議のアイデア実践に積極参加中

青陵中学区エリアミーティングのその後②

■エリアミーティングで防災の取り組みをやりたいとあげてくださった方をゆう桜ヶ丘避難所準備委員会(※)の訓練にお誘い



「青陵中学区防災担当者
連絡会」開設に向けた動
きがスタート！

訓練(2021年)の様子

※2021年から若者会議として委員会に参加させて頂いています

青陵中学区エリアミーティングのその後③

■エリアミーティングがきっかけで計4名の方が「多摩市若者会議」に参加

■その1名が中心になり、11/23(祝)多摩センターまちづかい社会実験に「マジックサウンドルーム」出展



パルテノン多摩リニューアル以前にあった「マジックサウンドルーム」を1日限定で復活させたいというアイデアでスタートした企画です。青陵中学区エリアミーティングがきっかけで加わった高校生メンバーが発案から企画・運営まで実施しました。

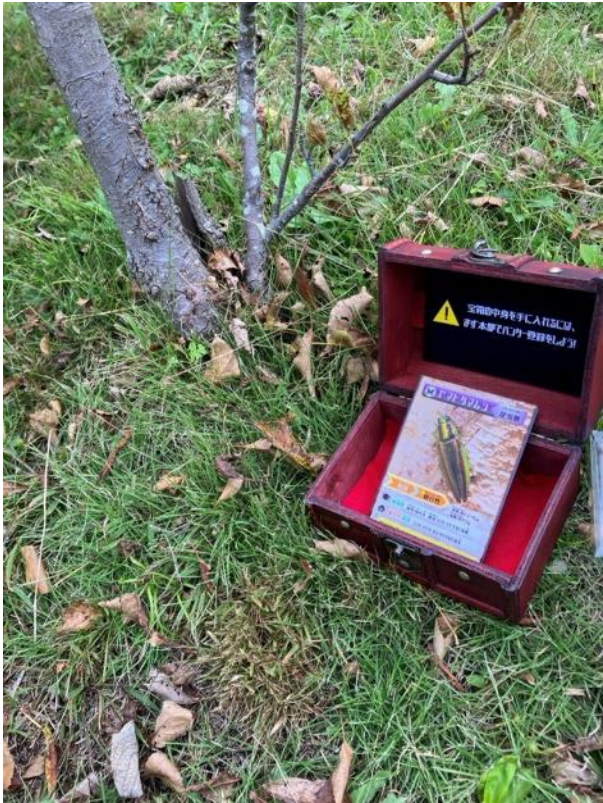
実施日	2023年11月23日
実施場所	パルテノン多摩5F 多摩ラボ
協働先	多摩市（社会実験主催者）
協力	パルテノン多摩・こども広場 OLIVE・多摩セントラルパークJV

団地イベント運営支援

■エスレート貝取-2



10/14 謎解き受付



謎解き

令和4年度の防災倉庫点検で繋がったエスレート貝取-2団地さんの管理組合主催のイベントの運営のお手伝いをさせて頂きました。

他の団地からもお声がけ頂きましたが日程が合わず本年度はこの団地のみとなりました。

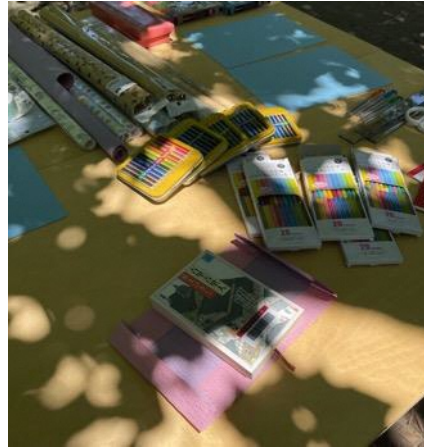
実施日	2023年10月14日・2024年1月20日
実施場所	エスレート貝取-2
協働先	多摩ニュータウンエスレート貝取-2住宅管理組合
協力	ネットワーク貝取・豊ヶ丘きずな

地域資源を活用したイベントの主催

■多摩BOOKさんぽ（第7回～第9回）



第8回



第7回 BOOKカバーづくり



第7回 貸出用公園グッズ



第9回 人口芝(写真は八角堂会場のもの)

本年も多摩BOOKさんぽを継続開催しています。この地域の大きな資源である公園やオープン空間の活用を提案する為、公園グッズを貸出、新しい公園の利用方法や魅力を発信したいというコンセプトは継続しています。

昨年度、子供向けのコンテンツが好評だったことから、小中学校の夏休み中の第7回に参加型でブックカバーづくりワークショップを行ったところ、親子でブックカバーを作って楽しめる方が多く好評でした。

本年度は日本総合住生活株式会社様が「朝市」本以外のテーマを同時開催するようになり、来場者数は昨年より多く推移しています。今後、この場を活かして、地域の方の活動・チャレンジの場の拡大につなげたい考えです。

■データ

○開催日

第7回：2023/07/29(土)

第8回：2023/11/11(土)

第9回：2024/03/30(土)

○協力：日本総合住生活株式会社、多摩市立豊ヶ丘図書館、公園緑地課

青陵中学区の取り組みの振り返り①

(1) イベントへの参加を契機とした既存団体との協力関係づくり【◎】

①ネットワーク貝取・豊ヶ丘きずな（地域福祉推進委員会）

令和4年度までと同様にネットワーク貝取・豊ヶ丘きずなに参加し、情報交換や意見表明を行ったり、全大会参加者と後日会話の場を設けるなど7月のエリアミーティングには同委員会世話人のみなさまにご参加頂き、地域課題に対する意識に変革があったとのことのお言葉も頂きました。

②多摩ニュータウンエステート貝取-2住宅管理組合

令和4年度の防災倉庫点検で繋がったエステート貝取-2団地さんの管理組合主催のイベントの運営のお手伝いをさせて頂きました（10月・1月の2回）。高齢化の影響で団地単独でのイベント開催をあきらめる団地が出てくるなか、本団地はイベントの運営方法に工夫があり、MichiLab/若者会議の他に青陵中学校の生徒が活躍できる場を設けるなど団地外のリソースも上手に活用しており、弊社としても大変学びの多かった団地です。今後の連携強化はもちろん、今後の他団地との協働でも参考にしていきたい考えです。

③貝取こぶし館運営協議会

令和4年度から引き続き貝取こぶし館のこぶし館まつりの運営に協力させて頂きました

⇒本年度は新たに②のエステート貝取-2団地との連携が実現し、団地主催のイベントに協力させて頂きました。イベント参加を継続しながら、既存の協力関係のさらなる強化、新たな協力関係づくりを深めて参ります。これらの協力関係を元に、地域の人とイベント、団体と団体をつなぐ役割も少しずつ果たせるようになってきており、つなぐ役割の強化も今後意識的に取り組んでいきたい考えです。

青陵中学区の取り組みの振り返り②

(2) 地域活動の参画者の増加及び地域での繋がり強化のための地域参画推進の試行実施【◎】

①エリアミーティング

7/2に開催したエリアミーティングが契機となり、貝取こぶし館の施設を活用した世代を超えたカラオケ企画、ランタンフェスティバル出店などに繋がりました。ネットワーク貝取・豊ヶ丘きずなの世話人の複数名から大きな気づきになったとの感想も聞かれ、ネットワーク貝取・豊ヶ丘きずなでは地域で活躍する現役世代を集めたトークイベントを開催するなどの変化も見られました。

また、エリアミーティングがきっかけとなり多摩市若者会議に4名が参加、うち大学生の1名と高校生の1名の計2名が継続的に参加しており、自治会と市が中心となった一本杉公園の清掃や多摩センター地区の社会実験への若者会議としての参加の中心的役割を果たすに至りました。

⇒これまでも子供向け企画では手応えのあった同地区ですが、既存の地域団体の行動が変化したり、小学生の保護者を中心としたグループによるイベントへの出展、これまで地域で活躍する場のなかった高校生・大学生が地域で活躍し始めるなど、エリアミーティングの開催が地域参画のきっかけづくりになる大きな手応えが得られました。地域で活動する人が背中を見せる形であらたな地域参画者を掘り起こす連鎖が起こせるよう引き続きこのアプローチで取り組んで参ります。

青陵中学区の次年度の取り組み

本モデルエリアでは、本年度までの取り組みを受け、次年度は以下の取り組みを実施します。

- ①エリアミーティングの継続開催
- ②より気軽に参加できる地域の取り組みの開催（清掃や来場者参加型企画など）
- ③地域の新たな取り組みへの支援
- ④地域課題に即したイベント・地域資源を活用するイベントの開催
- ⑤地域への情報発信方法の試行
- ⑥既存団体・イベントへの協力を行いながら、地域の多様な世代の地域参画を図る試み

特に①②に注力しますが、①②の取り組みが他の項目にも発展していくと考えており、①②の種蒔きを行い出てきた芽の分野を多く育てていく方針としたい考えです。

上記 6 項目は諏訪中学区と同様となりました

地域協創における中間支援組織の在り方については、長期的視野で本報告書後方でも触れています。

これまでの取り組みの総括と 今後の中間支援組織の展望について

地域コミュニティの課題と今後のアプローチ

これまでの取り組みで見えてきた地域コミュニティの課題と今後の取り組み例・地域協創における弊社担当地域におけるアプローチ方針を以下の表に整理します。

コミュニティ	以前	現状	今後（MichiLabの考えるアプローチ）
団地の管理組合や自治会など	・家庭の主婦が活動をし易かった ・新築当時は属性の近い人の集まりであり活動が活性化し易かった ・住区や学校区単位の祭りがあった	・高齢化と共働きの増加で担い手不足に ・新規住民は近い属性の人が身近にいない環境になり孤立感がある ・他団地との関係が希薄になった	・外部業者・市民団体の活用・近隣団地との協働(つなぐ) ・ITツール等を活用した負担減(環境づくり) ・共働き世代でも参加しやすい新しい活動方法の模索（環境づくり・可視化） ・団地・学校外の仲間と繋がる仕組み（つなぐ）
PTA・父母教・学校林保全活動等	・子どもがたくさん居た ・専業主婦が活動にコミットできた	・統廃合を行ったが現在では小学校はほぼ1学年1クラス ・少子化と共働き増加のダブルパンチによる担い手不足	・世代を超えて地域で支える仕組みを目指す(環境づくり・つなぐ)
協議会・委員会等	・スタート時期によるが以前は活動が盛んだった	世代交代ができず担い手不足を課題に掲げる団体が多い	・助言、活動支援（支援）
テーマ型の市民活動	・人工都市の歪み故の地域課題の多さ共通のテーマのもとに集った市民活動を盛んだった	・NPO法人まで発展した団体も含め、世代交代ができず活動を縮小したり解散する団体も出始めている ・新たな市民団体も増えているが以前ほど多くない	・世代交代できる団体は世代交代を目指す（支援） ・新たな団体にバトンタッチする（つなぐ） ・新たな活動を起こしやすい環境を整える（環境づくり）

協創職員制度と中間支援機能の役割

これまでの取り組みから見えてきた協創職員像と中間支援機能像を比較しながら図示します

【共通のテーマ】（立ち位置の違いがあり、それぞれの視点で動くことが大切）

- ①地域で活動する(したい)人・団体の支援
- ②地域のリソース(※)をつなぐ
※人・団体・企業・スキル・物的リソース・場所など
- ③地域参画・活動しやすい環境づくり
- ④地域の可視化、データベース化、有益な情報の発信

【手段(一例)】

- ・ エリアミーティングの開催
- ・ 参画し易いイベントを仕掛ける（清掃プロジェクト等）
- ・ 新たな市民の活動できる場をつくる（ランタンフェス等）
- ・ 新しいITツールの試行（Liqlidなど）

【協創職員】（中間支援機能との差にフォーカス）

- ・ 市政策との連動・政策への反映
- ・ 庁内の連携
- ・ 庁内に市民の声を届ける
- ・ 常設の窓口
- ・ 公的機関(URグループ・JKK)・大企業との連携
- ・ 責任のある対応
- ・ 自治体しかアクセスできないデータの活用
- ・ オフィシャルに後援する

【MichiLabが考える多摩NTにおける中間支援機能】

- ・ 地域の取り組みへのアドバイスや伴走支援
- ・ 自らより深く地域に入っていく
- ・ 自らも市民団体として活動することで市民目線を維持する
- ・ 行政の事情を意識せずに活動できるような場づくりをする
- ・ 自らもアイデア実践をすることで地域に背中をみせる
- ・ 地域のアイデアを実現してみせる
- ・ アイデア実践の相談機能
- ・ データベース化できない情報・経験値のストック（異動がない）
- ・ 市に市民目線を代弁する
- ・ 内々での新しいツールを試行・評価する
- ・ 市民目線で地域の資源を掘り起こす
- ・ 地域のパワー構造やステークホルダーの可能な範囲での把握
- ・ 庁内の組織にとらわれない横断的な伴走
- ・ 失敗を恐れずに試行し次に活かす（行政は失敗しにくい環境にある）
- ・ 地域活動事務局代行（受付やイベント情報の

市民行政双方の理解者であり、自らも活動する最前線部隊

市民行政双方の
理解者であり、
想いを持って業
務に取り組む行
政マン

情報共有・連携

将来的な中間支援機能像①

中間支援組織としてさらにリソースを割ける場合以下のような役割が考えられます

①「つなぐ」・「支援」のワンストップ窓口&各種情報発信機能



- ・ 地域情報の収集・発信
(掲示板、チラシラックの設置、地域情報サイトの運営、デジタルサイネージ、ウェブサイト、SNS運営等)
- ・ 地域活動の相談窓口
(イベント運営のアドバイス、行政手続きのサポート)
- ・ 地域活動事務局代行
(イベント運営で重荷だとの声の多いイベントの受付や電話対応、仲間募集等を代行)
- ・ 人・団体をつなぐ窓口
(何かを始めたい人、パートナーが欲しい人、団体をつなぐ)
- ・ スキルシェア・地域版クラウドソーシングの窓口・仲介役、困りごとのマッチング
(こんなことできるひと、こんなことやって欲しいからの募集、地域での副業の仲介、市民団体の人材募集)
- ・ 在宅勤務者同士をつなぐ取り組み、地域での起業・副業支援
(在宅勤務者の交流イベントや地域の事業者・複業実践者をつなぐイベント・企画)
- ・ 場所・道具の貸し出し、貸し出してくれる団体の紹介
(有償で時間で貸し出すシェアリングサービスも)
- ・ 地域活動のための行政手続きのサポート窓口
(イベント開催等にあたって必要な行政手続きのアドバイス、協創職員と連携)
- ・ 団体運営の助言
(若い世代でも関り易い団体の運営への助言やツール紹介、負荷軽減策の紹介など)

将来的な中間支援機能像②

②地域の魅力発信、地域のくらしのアップデート、新住民候補者への支援機能



- ・ 地域ツアーガイド
(地域の魅力や歴史、地域資源を実地で紹介するガイド)
- ・ IoT家電の紹介、団地での活用事例情報の収集・発信
(同じ作りの住戸が多い団地を逆にIoT家電導入を促進)
- ・ 管理組合・自治会運営の支援
(管理組合・自治会運営の負荷軽減策情報の収集・助言、新しいツールの紹介)
- ・ スマートフォンやパソコンの使い方相談窓口
(地域のITリテラシー向上は後の地域の取り組みのし易さにつながる)
- ・ 家探しのサポート
(この地域で住宅を探している方への第三者による客観的な助言・情報)
- ・ 在宅勤務に適した住宅が多いことを内外に発信する
(住宅・環境の良さと合わせてコミュニティの存在をアピールする)

③リソース強化や窓口設置により、現有中間支援機能のさらなる強化

④他のモデルエリアの中間支援組織とのアイデア共有・意見交換、交換留学等